

第97号

# 酪農とちぎ



第27回栃木県ホルスタイン共進会より

「キャラクター<sup>えみ</sup>笑味ちゃん」



みんなのよい食プロジェクト

- 1 ページ 表紙
- 2～3 ページ 平成29年度上半期事業実績（各部門）
- 4 ページ 栃木県酪農フェア2017開催
- 5 ページ 第27回栃木県ホルスタイン共進会
- 6～7 ページ 東西南北（各支所）
- 8～9 ページ 部課だより（業務部、生乳受託課）
- 10 ページ 理事会だより、お知らせ、市場成績



# 平成29年度上半期事業実績

上半期の各部門を合わせた事業総利益は3億4737万円(計画比97.0%)となり、事業利益において計画差1050万円減、経常利益においても計画差1169万減の実績となりました。

大きく計画を下回った要因は、平成28年度後継牛安定確保対策事業(性別別精液助成金)の支払を、税法上有利な対応として、改良事業の費用で支出したためであり、それらを加味した場合は経常利益で1199万程計画を上回る状況です。

下半期も2カ月を過ぎようとしていますが各事業、計画達成に向けて事業を推進して参りますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。以上、上半期実績について概況を報告致します。

## 一、生乳受託事業

① 生乳生産状況等については、生乳生産量は456月度において計画比101%台と好調な生産となったが、7月の猛暑の影響等から7・8月は計画を若干下回ったものの、大規模酪農家の生産量が堅調に推移したこともあり生産量11万9419t(前年比99.9%)、計画比100.7%)と計画を若干上回る実績となりました。

生乳販売高は、関東生乳販連の特定乳製品向けが前年比88.4%と減少し、さらに加工率が88%下回ったことも加わり、

134億3057万円(前年比100.2%、計画比101.3%)の実績となりました。

## ② 乳質について

乳脂率は、本年1月以降大規模酪農家の低下が影響し前年を下回る状況で推移したが、直近8・9月においては前年を上回る結果となりました。無脂乳固形率は、前年並みで推移したが、7・8月に前年を割れ9月度には回復に至りました。体細胞数は前年を下回る好成績でしたが、7月の猛暑の影響等から8月度のみ前年を上回る結果となりました。

また、上半期の不合格件数は前年を17件下回り、495件となりました。

## ③ 奨励金について

生乳生産管理チェックシートの完全定着化については、重点項目の未記帳者数0件と目標を継続することができました。

尚、不良乳の発生は前年同期と同じ3件でした。

④ 奨励金については、需要期出荷奨励金は1億2551万円(前年比99.5%、計画比100.3%)、需要期優良生乳出荷奨励金は該当率23.1%、3580万円(前年比94.6%、計画比99.2%)の実績でした。

## ⑤ 生乳計画生産について

上半期の生乳計画生産は、組合員の申告乳量(割当配分)比98.5%、関東生乳販連計画生産目標数量比100.2%となりました。

## 二、購買事業

上半期の飼料供給量は、TMR飼料のメニュー変更等による利用増を受け、濃厚飼料においては3万9421トン(計画比100%)とほぼ計画通りとなりました。しかしTMRへの移行や自給飼料の利用が引き続き増加していることを受け、粗飼料においては1万6256トン(計画比96.7%)と計画を下回る実績となりました。

そのような状況下であります。そのような状況下であります。が、利用量別奨励金を配合飼料1億0991万円、粗飼料1357万円、TMR等813万円、総額で1億3162万円(計画比99.3%)を支払うことが出来ました。また今年度より配合飼料利用量別奨励金の単価をランク別から算定値方式に改定しており、事業収支において、計画外の利用高収当金等があったことにより1億0328万円(計画比107.1%)となりました。

## 三、酪農指導及び流通事業

酪農指導事業においては酪農経営の安定を図るため、巡回指導を通し飼料管理改善を行ったほか、良質自給飼料生産の安定と拡大に向けた支援、各種補助事業を推進すると共に、組合・制度資金借入等の相談や組織活動支援にも努めてまいりました。

まず、良質自給飼料生産の安定と拡大に向けた取り組みについては、酪農受託委託検討会を開催し、既存組織の受託状況の把握と新たな組織の立ち上げ支援について検討し、各支所、各地域の実情、要望を把握し今後とも検討していくこととしました。また、酪農とちぎアグリサポートの受託面積の増加に伴い、効率的な作業が行われるよう、各支所と連携して対応い

たしました。また、デントコーン畑における雑草対策とデントコーン収穫の注意点について文書を発信し、良質な自給飼料生産に対する啓蒙を行いました。更に、今年度も県北を中心に放射能検査の影響による牧草の給与前検査が必要となり、サンプル採取の巡回等を通し、安全で安心な生乳生産に努めました。

② 担い手の確保及び育成支援としては、9月に「第4回酪農とちぎPresents RADIO BERRY」を開催し、プリンゲパーテイーを開催し、その結果2組のカップルが成立しました。更に、7月には青年部傘下のDDF(デリーリイ)ドリム(ファーマーズ)主催のドライブドレイトも開催しました。また、経営継承に関する第3者による経営継承打合わせや協議等を通じた支援を行いました。

酪農ヘルパー事業は、定休利用、傷病利用共に増加し、計画を上回りました。(計画比108.1%)

③ 補助事業関連については、クラスター事業の畜産・酪農収益力強化整備特別対策事業(85戸)、畜産・酪農生産力強化対策事業(180戸)を始め、乳用後継牛緊急確保事業(187戸)、飼料生産型酪農経営体生産性向上緊急対策事業(3戸)に取り組みました。また、公社営事業や畜産・酪農収益力強化整備特別対策事業(クラスタ事業)による規模拡大に対応して、関係機関や金融機関との協議を行いました。

④ 流通事業の預託事業は、預託需要が高まり昨年を上回る実績となりました。また、導入事業においては、Jミルクの酪農乳業産業基盤強化特別対策事業によるオース

トラリアからの導入があり計画を上回りました。

#### 四、改良事業

凍結精液販売事業の乳用牛は、クラスター事業及び後継牛安定確保対策により性別別精液の利用率を促進し、クラスター事業分精液が円滑に確保でき、計画を前倒して供給できましたが、夏場の授精頭数減少等により、通常精液の販売数は大幅に減少したため計画を下回る実績となりました。肉用牛精液は人気種雄牛の確保に努め販売増を図りましたが、入荷本数が制限され、計画を下回る実績となりました。乳用牛、肉用牛精液を合わせて2万244本となりました。(計画比96.3%)

受精卵販売事業は、乳用牛精液と同様にクラスター事業での性別受精卵及び和牛受精卵、リピトリブリーダ対策のF1受精卵供給により計画を上回る実績となりました。(計画比186.4%)

登録業務は、血統登録は自動登録へ8件の新規加入があったことと、事故の解消に努めた結果、計画を上回りました。(計画比103.1%)

牛群検定事業は、検定成績の活用、普及支援に努め、上期においてお試し事業に1件が参加しました。

#### 五、診療事業

繁殖検診事業は、5月から4名体制に戻り、新規4戸と夏場涼しかったことで発情鑑定や妊娠鑑定、乾乳前の再妊鑑定が多くなり、計画を上回りました。(計画比103.5%)

乳房炎予防検査は、バルクスクリーニング検査を全支所で取り組み、ほぼ計画通りでした。(計画比100.5%)

平成29年上半期 予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)	
生乳受託	収益	14,802,050	14,968,919	166,869	101.1
	費用	14,553,106	14,725,033	171,927	101.2
	利益	248,944	243,885	▲ 5,058	98.0
購買	収益	3,851,740	3,829,145	▲ 22,594	99.4
	費用	3,755,350	3,725,863	▲ 29,486	99.2
	利益	96,390	103,281	6,891	107.1
酪農指導	収益	94,403	106,226	11,823	112.5
	費用	107,406	116,634	9,228	108.6
	利益	▲ 13,003	▲ 10,407	2,595	-
流通	収益	170,060	192,730	22,670	113.3
	費用	169,624	192,248	22,624	113.3
	利益	436	482	46	110.6
改良	収益	143,771	189,794	46,023	132.0
	費用	131,082	198,409	67,327	151.4
	利益	12,689	▲ 8,615	▲ 21,304	-
診療	収益	20,898	23,157	2,259	110.8
	費用	8,084	8,858	774	109.6
	利益	12,814	14,298	1,484	111.6
牧場	収益	63,052	68,774	5,722	109.1
	費用	63,092	64,325	1,233	102.0
	利益	▲ 40	4,448	4,488	-
事業総収益	19,145,974	19,378,748	232,774	101.2	
事業総費用	18,787,744	19,031,373	243,629	101.3	
事業総利益	358,230	347,374	▲ 10,855	97.0	
事業管理費	365,411	365,055	▲ 355	99.9	
事業利益	▲ 7,181	▲ 17,681	▲ 10,500	-	
事業外収入	13,025	12,444	▲ 580	95.5	
事業外費用	5,231	5,837	606	111.6	
経常利益	613	▲ 11,073	▲ 11,686	-	

同 (株)酪農とちぎアグリサポート予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)
収益	32,770	39,136	6,366	119.4
費用	34,805	36,024	1,219	103.5
利益	▲ 2,035	3,112	5,147	-

しかし、個体及び分房乳検査は、依頼が少なく計画を下回りました。(計画比60.2%)

受精卵移植事業の採卵は、ホルスタイン・和牛共に依頼が多く計画を上回りました。(計画比136.4%)

移植は、補助事業の和牛卵や和牛IF卵、F1卵の移植が計画より多くなり、計画を上回りました。(計画比118.9%)

人工授精は8月中旬以降気温が低かったことで、自然発情や検診時の同期化による授精が多く計画を上回りました。(計画比117.2%)

放牧場関係は、ふれあい牧場や葛巻放牧場預託の下見巡回件数も多く計画を上回りました。(計画比115.3%)

診療事業収支については、事業利益で142.9万円(計画比111.6%)となりました。

#### 六、牧場事業

牧場事業は、牧場の飼養、圃場管理全般の作業等を酪農とちぎの子会社である(株)酪農とちぎアグリサポートに委託し、効率的な事業運営を図りました。

授精月齢の短縮を図りました。(平均月齢25.5ヶ月(前年比)10.4%)

預託頭数は2505頭(前年比)10.4%増となりました。

支については、小林放牧場と土平放牧場を利用し、効率的な運営ができ、更に預託頭数増であることから事業利益は、44.4万円となりました。

#### 七、経営管理

事業管理費は、人件費が計画並、業務費は会議費等の増はありましたが旅費交通費等が減少し、ほぼ計画通りの3億6506万円(計画比99.9%)の実績でした。

(株)酪農とちぎアグリサポート酪農とちぎアグリサポートの事業運営状況は、デントコーン収穫作業の希望者と新規受託が増えたこともあり22.43haの受託で計画比130.2%となりました。

また、人的支援については、オペレータ作業の要望も多く668.5時間で計画比139.3%となりました。

なお、収支については、受託業務が増えたことにより事業利益31.1万円となり計画を上回りました。





# 栃木県酪農フェア2017開催

去る10月14日(土)、栃木県畜産酪農センターにおいて「ミルクの国とちぎ 栃木県酪農フェア2017」と題し、栃木県酪農協会主催、県内5農協後援、県牛乳普及協会の協賛で、「第27回栃木県ホルスタイン共進会」と併せて盛会に開催されました。

酪農フェア会場は、「ミルクの国ゾーン」と「消費者とのふれあいゾーン」とに分かれ、ミルクの国ゾーンでは、ホルスタイン共進会が開催され県内各地から64頭の



開 会 式

乳牛(ホルスタイン種)の審査が行われました。また、共進会会場外側では、農機具や資材等を酪農関連業者が展示出店し、会場を盛り上げ、酪農家とのコミュニケーションが図られました。

消費者とのふれあいゾーンでは「ミルク王国フェア」と題し、以下のイベントが開催されました。

- ① 「栃木県産牛乳試飲コーナー」
- ② 「ミルト子供広場コーナー」  
(バルーンパフォーマンス・牛丸ふわふわ・ロールベール落書きコーナー)
- ③ 「バター作り体験コーナー」
- ④ 「ミルクバスボム(入浴剤)工作コーナー」
- ⑤ ミルクドーナツ販売コーナー
- ⑥ 乳製品販売コーナー

また、恒例の搾乳模擬体験・子牛ふれあいコーナー、「牛乳入り豚汁」、手作りピザ体験教室・フードコーナー等々、盛りだくさんの催しに各コーナーにおいて賑わいをみせていました。関係者をはじめ

め一般消費者の方々へも乳牛や乳製品を通じた理解醸成に繋がったことと拝察いたします。



栃木県産牛乳試飲コーナー



手作りピザ体験教室



ロールベール落書きコーナー



休憩コーナー



牛乳入豚汁



バルーンパフォーマンス



# 第27回栃木県ホルスタイン共進会



松原審査員



名誉賞

経産の部

中山 真介氏

北海道より有限会社  
田中牧場、松原秀雄氏  
を審査員に迎え未経産  
4部、経産4部、64頭  
の精鋭が県内より集結  
しハイレベルな改良成  
果を競い合いました。

厳正なる審査の結果、

当組合から名誉賞  
未経産の部には清水時  
雄氏、経産の部には中  
山真介氏、準名誉賞未  
経産の部には中山真介  
氏、経産の部には松井  
光氏が輝きました。各  
部上位入賞牛結果は下  
表の通りです。入賞者  
の皆様おめでとうございます。

名誉賞  
未経産の部  
清水 時雄氏



## 第27回 栃木県ホルスタイン共進会入賞牛一覧表

開催期日：平成29年10月14日（土）

開催場所：栃木県畜産酪農研究センター（那須塩原市千本松）

審査員：松原秀雄氏（有限会社 田中牧場）

出品頭数：64頭

出品番号	生年月日	名号	父名号	出品者	
				住所	氏名

### 名誉賞

#### 未経産の部

206	H28.5.12	スマ CD マツカチエン キアリー	デスー BKM マツカチエン 1174 ET	那須郡那須町豊原丙	清水 時雄
-----	----------	-------------------	------------------------	-----------	-------

#### 経産の部

504	H27.6.28	バインツリー アルタカリバー ルドルフ	レークエフェクト アルタカリバー ET	那須烏山市小倉	中山 真介
-----	----------	---------------------	---------------------	---------	-------

### 準名誉賞

#### 未経産の部

207	H28.5.12	バインツリー ブライダル サム	エンドリツチ レオ ON ブライダル	那須烏山市小倉	中山 真介
-----	----------	-----------------	--------------------	---------	-------

#### 経産の部

706	H25.1.4	MM ローリン ジエイズ	ホーランド ジエイズ ET	那須烏山市大里	松井 光
-----	---------	--------------	---------------	---------	------

### 優等賞1席

部	出品番号	生年月日	名号	父名号	出品者	
					住所	氏名
1	106	H28.8.17	タヨウ ワーデン スター シュエリー	ハルビツツノ ドミニク ET	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校
2	206	H28.5.12	スマ CD マツカチエン キアリー	デスー BKM マツカチエン 1174 ET	那須郡那須町豊原丙	清水 時雄
3	307	H28.1.24	ハーネスファーム サンタナ アシシア	ペナー サンタナ ET	那須塩原市壘沼	高塚 浩典
4	403	H27.12.18	タヨウ キャシー サンダー ウルハ	ゴールデンオクス ST アレキサンダー ET	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校
5	504	H27.6.28	バインツリー アルタカリバー ルドルフ	レークエフェクト アルタカリバー ET	那須烏山市小倉	中山 真介
6	612	H26.3.30	383 タカハシ M ウインド ライナー	シレット ウインドブルック ET	日光市大室	鷹箸 仁美
7	706	H25.1.4	MM ローリン ジエイズ	ホーランド ジエイズ ET	那須烏山市大里	松井 光
8	802	H24.4.23	コマバファーム ハイポイント サンチエ	ジエンマーク ストーマティック サンチエス	宇都宮市古賀志町	駒場 靖史



上位入賞者と共に



## 那須高原支所

わくわく！

### 小学生が牧場で搾乳体験

10月26日、秋晴れの空の下、那須塩原市青木の小針結城牧場において、地元青木小学校三年生を対象に搾乳体験を開催しました。この行事は、酪農とちぎ青年部黒磯支部青木班と小学校が連携し、市基幹産業である酪農について、



搾乳体験車

子供たちの理解を深める機会として毎年青年部員の牧場で実施しています。今年は14名の生徒が来場し、送迎バスから降りると「早く牛さんが見たいよー!」と、今日の日をととても楽しみにしていた様子ではしゃぎつつも、牧場主の小針さんからの始めの挨拶では、牛と触れ合う時の約束事を真剣に聞いていました。

搾乳体験の前に、哺育牛、育成牛、搾乳牛の順番でそれぞれ見学して頂き、小さな子牛が搾乳牛としてとても大きく成長することに大変驚いている様子でした。

メインイベントの搾乳体験では、関東生乳販連所有の搾乳体験車で一人一人順番に搾って頂き、順番を待っている間、子供たちはワクワクドキドキで待ちきれない表情でした。



上手に搾れたかな…

また、搾乳体験が終わったらバター作り体験にチャレンジして頂き、なかなか出来ずに時間がかったお子さんもいましたが、最後は全員バターを完成させ、出来た時は満面の笑顔になりました。そして、出来たバターはクラッカーに付けて美味しく味わって頂き、とても喜ばれました。

最後は、牧場主の小針さん、青年部員の皆さんに元気いっぱいのお礼の挨拶をして体験を終了しました。

青木地区青年部の皆様の活動により、今年も子供たちには楽しい秋の思い出を作ってもらった事が出来たと思います。また、今回の体験をきっかけに、酪農について理解を深め、国産牛乳・乳製品の消費拡大の一助になったことと思います。ありがとうございました。

## 宇都宮支所

### 支所協議会全体研修会を開催

11月6日、支所活動推進協議会（松井美会長）主催の研修会が、



田中次長講演

宇都宮支所に於いて開催されました。講師には、家畜改良事業団前橋種雄牛センター次長の田中健一氏をお招きし、ゲノミック評価の活用とCD（牛コレステロール代謝異常症）について、17名が受講されました。

まず、ゲノミック評価について説明があり、この評価はSNP情報と血統情報や牛群検定・後代検定データを利用し、分析する事により遺伝的能力を予測することです。日本では、平成25年から未經産牛のゲノミック評価成績の提供が開始されました。利点としては、

未經産牛の全姉妹や同一牛群内での比較に有効であり、早期に遺伝的能力が判明することで、交配相手や後継牛の選定に利用可能となります。ゲノミック評価は、PA（両親の育種価の平均値）より信頼度が高く、改良速度も早まることが期待できます。ただし、まだ発展途上の技術でもあり、リスクを伴う事も認識しておくべきとの事でした。

次に、CDについては、遺伝的不良形質として国内でも発症牛が確認されており、慢性下痢等が発症します。国内対応としては、保因種雄牛の公表と精液の販売が停止されており、在庫がある場合は交配に注意する様に説明がありました。

以上、農家の立場で色々とアドバイスを頂き、有意義な研修となりました。

### グラウンドゴルフで親睦交流

(宇河今市地域)

晴天の11月13日、宇河今市地域酪農組合（木村康彦組合長）主催

によるグラウンドゴルフが、富屋小学校に於いて行われました。この競技は簡単で楽しく、そして健康的なゲームであり、当日は組合員及びその家族13名が参加し、プレーされました。競技では、珍プレーや好プレーが続出するなど、楽しく親睦交流を図ることが出来ました。

競技終了後は、場所を「手打ちそば季蕎（ききょう）」に移し、金田修一副組合長の進行により、和やかに表彰式及び懇親会が行われました。表彰式では盛り沢山の賞品が全員に渡され、皆さん満足



ナイスショット！  
酪とちレディースプロ？の皆さん

顔のなか十分に楽しまれ、散会しました。

## 県南支所

### 地域酪農組合合同研修会を開催



講師の蛸原氏

11月9日、芳賀地域酪農組合（大瀧信夫組合長）と河内南部・下都賀地域酪農組合（小池久夫組合長）による合同研修会を県南支所にて開催し、44名が参加しました。今回の研修は、蛸原聡氏（株式会社明治・酪農部生産グループ専任部長）を講師として、「今、酪農家に伝えたいこと」と題し講演をいただきました。

酪農業界を取り巻く様々な環境変化について、特に生乳生産基盤の弱体化は顕著であり、それは生乳生産量や酪農家戸数の減少から

明らかである。そこで、明治として「生乳生産基盤の維持・強化」を目的に、酪農部生産グループを2年半前に発足しました。主な活動としては、酪農家のコンサルティング、講習会やセミナーの開催、さら到来年度からは酪農専門人材育成研修にも取り組む予定です。

また、酪農と乳業が永続的に繁栄し続けるために、「酪農の価値」をお客様に理解してもらい、その価値を高く評価してもらうことを目的に、「牛乳の価値向上」にも取り組んでいる。例えば、牛舎や処理室の整理整頓を行うことによって、消費者に良いイメージを持ってもらうことが、牛乳の価値向上に繋がります。皆さんの日々の努力が報われるのです。

研修会終了後には、支所協議会事業として花の苗と球根を配布しました。今後も環境美化に取り組む、チェックシートの記載・記録と併せて、安全・安心な生乳生産をお願いいたします。なお、県南支所管内の牛舎環境調査は12月4～11日を予定しております。



部課だより

業務部

●第59回

全国牛削蹄競技大会

11月9日に、茨城県水戸市の有限会社瑞穂農場鯉淵分場にて第59回全国牛削蹄競技大会が開催されました。

この大会は、認定牛削蹄師の技術の維持・向上を図ることを目的とし、牛削蹄判断競技と牛削蹄競技の2種目の合計点で競います。牛削蹄判断競技は判断用牛1頭について、内外蹄の負重バランス、角度の適否、肢勢、蹄形、歩様、疾病損傷など、多数の項目について適正な判断が下せるかという競技です。牛削蹄競技は実際に削蹄し、内外蹄のバランス、形状、下面の処理、削切量、端蹄廻し処理、時間内に終了できるかの項目で採点され競い合います。

9月13日に千葉県で行われた関東甲信越地区牛削蹄大会において栃木県削蹄師会の大町真之が優勝し、この全国大会に出場しました。各地の予選を勝ち抜いた計24名の削蹄師がエントリーされ、大町氏は健闘したものの、優勝は鳥取県代表の小川氏が獲得しました。また次の大会で栃木県の削蹄師が活躍することを祈念いたします。



左から 佐藤 勇一氏 (栃木県削蹄師会会長) 村田富士雄氏 (削蹄師) 大町 真之氏 (削蹄師)





# 生乳受託課

平成29年10月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し99.5%（1万9542t）と、7月以降4ヶ月連続し前年を下回る状況です。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万2822t（前年比99.9%）、宇都宮支所2479t（同99.8%）、県南支所4242t（同98.1%）となり、出荷者数は、前年同月より16戸減の428戸（内、学校は1校）でした。

10月度の組合平均乳質は、脂肪率3.80%（前年差+0.03%）、無脂固形分率8.80%（同▲0.00%）、体細胞数21.63万（同▲0.45万）と前年同月と同等以上の好成績となりました。尚、10月の不合格件数は580件で、前年同期596件を16件下回っております。

関東生乳販連の10月総受託乳量は8万8856t（前年比98.9%）となり、本組合同様4ヶ月連続し前年を下回る状況となりました。

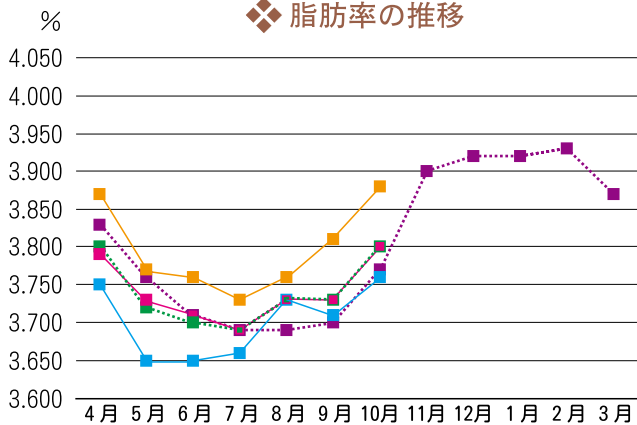
また用途別の販売数量は、飲用・加工・チーズ向けが生産量（前年比98.9%）に準じた数量となり、はっ酵乳向けが若干前年を上回り

ました。10月の全国の生産量は、北海道が前年比101.0%と2ヶ月連続し前年を上回り回復基調の中、都府県は98.2%と25ヶ月連続し前年を下回りました。このため、全国の生産量は99.7%と15ヶ月連続で前年割れの状況です。尚、平成29年10月の生産量・乳質、関東生乳販連の用途別販売数量は別表のとおりとなっております。

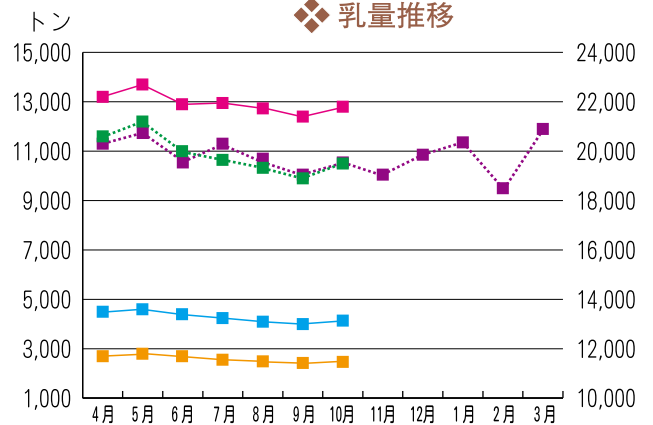
平成29年度 関東生乳販連用途別販売数量（単位：kg・%）

用途	10月期実績	前年同期実績	前年比	10月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	70,765,559	71,495,507	99.0	491,996,668	493,399,241	99.7
(うち学校向け)	12,493,347	12,358,038	101.1	68,660,530	68,499,606	100.2
はっ酵乳向け	12,588,033	12,508,843	100.6	93,171,761	91,184,337	102.2
特定乳製品向け	4,030,645	4,163,112	96.8	43,791,850	49,138,931	89.1
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム向け	1,415,703	1,576,318	89.8	10,748,933	11,252,923	95.5
チーズ向け	56,530	57,744	97.9	433,683	440,501	98.5
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	88,856,470	89,801,524	98.9	640,142,895	645,415,933	99.2
加工比率	4.54	4.64	-	6.84	7.61	-

## 脂肪率の推移

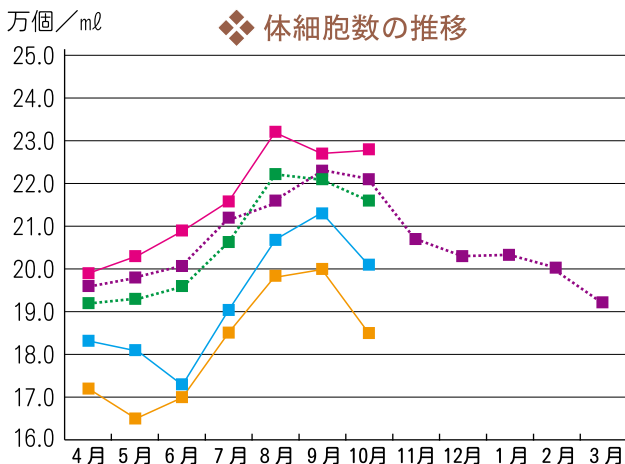


## 乳量推移

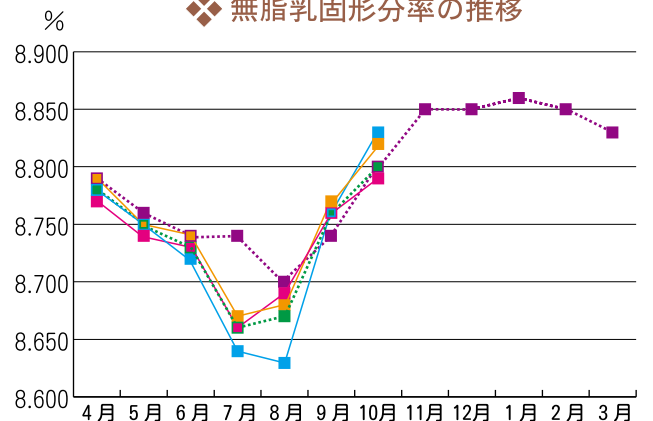


■ 那須高原 ■ 宇都宮 ■ 県南 ■ 平成29年度 ■ 平成28年度

## 体細胞数の推移



## 無脂乳固形分率の推移



# 理事会だより

## 9月度理事会（9月29日）

### 報告事項

- (一) 組合員の加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (六) 関東生乳販連情報について

### 協議事項

- (一) 8月度事業実績について
- (二) 規程の一部改正について
- (三) 固定資産の取得について

### 報告事項

- (一) 組合員の加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合プール乳価について

## 10月度理事会（10月31日）

- (四) 特別管理未収金の報告について

- (五) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について

- (六) 子会社の上半期事業実績について

- (七) 関東生乳販連情報について

### 協議事項

- (一) 9月度及び上半期事業実績について



## お知らせ

### 《農作業中の事故に》

気を付けましょう！

今年度における農業労災事故の発生件数は以下のとおりです。

○牛との接触事故 3件

○ラッピングマシンで牧草のラッピング作業中の裂傷事故 1件

○ミルクカーアーム部分及びローダーバケット部分の打撲事故 2件

○デントコーン刈り取り機での裂傷事故 1件

○サイロ詰め作業時の打撲事故 1件

年末に向かい何かと忙しい時期になりますが、健康管理を含め万全な体制で酪農全般の作業にあたり、農作業事故を未然に防ぐよう心掛けましょう。

## 10月度 ホクレン初妊牛市場成績 [単位：千円（税込）]

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
十勝	10月10日	492	392	79.7%	888	65	57	1,093
釧路	10月11日	283	203	71.7%	843	15	10	984
根室	10月12日	465	364	78.3%	843	46	39	987
豊富	10月13日	300	170	56.7%	809	5	1	933
十勝	10月25日	499	417	83.6%	862	70	64	1,087
北見	10月26日	389	256	65.8%	838	11	8	1,024
合計		2,428	1,802	74.2%	847	212	179	1,018
前月		2,373	1,796	75.7%	858	229	154	995
前年同月		2,393	2,125	88.8%	807	221	188	939

初妊牛の今後の動向は3～4月分娩のF1腹が中心となります。大型牧場の導入が引き続き旺盛なことや、道内酪農家の経営状況が良い事から出回り頭数の減少が見込まれ、相場が下がる要素が少なく高値維持～やや強含みで推移するものと思われます。導入を希望される方は腹条件・分娩月によって手配に時間がかかることも予想されますので、十分余裕をもってのお申込みをよろしくお願い申し上げます。

## 10月度 県内家畜市場成績 [単位：円（税込）]

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
那須(10/30)	ホルス雄	114	65	223,560	10,800	120,259	13,216
	F1雄	105	65	330,480	70,280	260,774	16,660
	F1雌	102	59	254,880	101,520	183,865	21,286
館林(10/27)	ホルス雄	0	0	0	0	0	▲105,840
	F1雄	12	96	344,520	75,600	281,610	▲42,174
	F1雌	10	94	273,240	230,040	255,744	▲23,436

今回の初生牛取引価格は前回から比較し、那須では全体的にやや強含み、館林では弱含みとなっています。館林市場では成立頭数が少ないため回毎の平均価格が大きく上下しやすいですが、年度当初のF1価格平均（雄：383千円、雌：290千円）と比較すると、毎月大きく値動きしながらかも、全体としては右肩下がりとなっています。今後も回毎に値動きを繰り返しつつ、同様の動きで推移するものと思われます。

